

「三重県 心のノート」活用事例

校種	小学校	学年	6年	内容項目	2－(5)
主題名	先人の偉業に対する感謝の気持ち				
資料名	多くの人々に支えられ、私たちの今がある 木曾三川と治水 「三重県 心のノート 小学校5・6年」(三重県教育委員会)				
ねらい	先人の偉業を知り、感謝の思いを持つ				
展開	学習活動と主な発問			指導上の要点	
	<p>1 木曾三川の流域で、たびたび水害が起こっていたのは、どうしてでしょうか。</p> <p>2 ふるさとから遠く離れた場所での工事に向かうとき、平田靱負はどのようなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>3 薩摩藩士の治水の様子を人々はどのような思いで見えていたのでしょうか。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 三本の川が合流・分流を繰り返しているため、水害が起きやすくなっていたことをおさえる。 「同じ日本に住む困っている人を救おう」という声のもと、千人の藩士が命がけで取り組んだこと、そしてそのことを現在でも人々が感謝していることをおさえる。 	
他の教育活動との関連	社会科の「江戸時代～明治時代」での歴史学習（特に幕藩体制のところ）と関連させて考えていく。				
成果と課題	三重県で起きていたことのために、九州の鹿児島から千人もの人がかけつけてきてくれていたことが分かり、児童も感心している様子であった。また、工事で何人の方が亡くなっていること、最後は責任を負って平田が切腹したことを知り、どれほどの覚悟をもって工事をやっていたかを思い、あらためて感謝の念を抱くことができた。				